

もみじ

— 広島県山岳連盟会報 —



一般社団法人 広島県山岳連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

第 12 回山の日 県民の集い

猿木峠～掛頭山～土草峠登山道整備

北広島八幡会場 6 月 1 日 (土) 実施

普及部 福永やす子

第 12 回山の日県民の集いが安芸高田市を新規会場に県下 12 会場で行われた。6 月 1 日(土)北広島町八幡会場では、広島県山岳連盟は猿木峠～掛頭山～土草峠の登山道整備、JAC 広島支部は霧ヶ谷湿原の再生作業を行った。前日、JAC & 山岳連盟のスタッフと地元高原の自然館の河野さんでゼッケン等を準備。

当日 6 月 1 日(土)9 時から受付開始後、かりお茶屋前で山岳連盟・日本山岳会広島支部合同で開会式。現地主催者の NPO 法人西中国山地自然史研究会近藤会長の挨拶後、山岳連盟理事長・兼森 JAC 広島支部長の挨拶、注意事項の後「山の日」宣言があり、それぞれに分かれて現地に移動した。

掛頭山山頂リフトで昼食

山岳連盟が担当した登山道整備は下見で倒木や笹の繁茂具合を確認していたので、チェーンソー 2 台と草刈り機 4 台で A・B 2 班に分かれて両方から作業を開始した。A 班 10 名は猿木峠からチェーンソー 1 台で倒木を処理し、草刈り機 2 台で登山道の笹などを刈り、片付けメンバーが鎌や鋸を持参して登山道整理に当たって午前中に車道まで貫通した。B 班 9 名土草峠か

らも順調に進み、A・B 班とも掛頭山山頂のリフト下り場で昼食を食べながら午後の作業ミーティングを行った。

午後からお互いが掛頭の山頂に向かって作業を開始した。心配された天気もほとんど作業終了近くまで持って土草峠まで綺麗に整備出来た。新緑の爽やかな木漏れ日の中、登山道整備で心地よく汗を流し、整備された登山道を歩く爽快な気分は一人では味わえない連帯感があるので、今後も継続したいと思います。皆さんご協力ありがとうございました。

写真は登山道を整備している参加者



整備された登山道 (写真下)





「山の日」の登山道整備に参加した人たち

第3回クライミングスクールを受講して

6月9日(日)

教わったことを必死で覚え、

息も絶え絶え登りきる

細野高志

三篠の公民館で、先生方が何のことを話しているのかチンプンカンプンでスタートし4回目となりました。

今回も岩にしがみつきながら「早く二本足で歩きたい」「手離したら楽になるかな」のようなことばかりです。でも今回は、擬似マルチピッチとのことで次の人とロープでつながっているためなんとしても登りきるしかない。そう思うと急にアドレナリンが出るのか心拍数がものすごくあがり、また下からの声援と上でビレイしてくれている仲間からの声かけで、なんとか登りきることができました。先生方を信じ、仲間を信じ、技術を信じ、道具を信じて毎回参加しています。

帰宅するとバタンキュー、翌日筋肉痛に苦しみながら出勤し水曜くらいからやっと日常生活に戻る。さあ週末復習しなくてはと思いながらも一週間が終わりアツという間に次回の講習日。こんな感じではありませんが、毎回、前回の復習からスタートし、チェックを

してもらえるのでなんとかついていけています。わからないことはその場ですぐ徹底的に教えてもらえますし。

後なんとかしなくてはいけないのは自分の体重と登る技術。前の人のを参考にと思っているのですが、自分の準備、チェックで精一杯、いざ自分の番となると頭の中真っ白で岩に飛びついていきます。凹凸が大きいところにしか目がいかず、それが見えなくなってしまうと顔面蒼白、冒頭の文章につながります。これは回数をこなすしかないのだと思いますが、その他にもクライミング技術の本を読んだり、ジムにでも通わないとついていけなくなるなど、かなりあせっています。

以上、よくわかっていない初心者感まるだしの文章ですがこれが今書ける精一杯です。要約すると、毎回教わったことをその場で必死で覚え、息も絶え絶え登りきり、なんとかギリギリついていっていますといった感じでしょうか。次回もよろしくお願いします。

第2回クライミングスクールを受講して

5月12日(日)晴

受講して3年目

天応烏帽子岩 8:30~16:00

2班 前原俊充

スクールを受講しての感想文の提出を求められ、3年目で未だ芽が出ない前原が担当することになりました。1年目は消極的で、2年目はちょっと積極的に、3年目は、片目が開く程度に頑張ろうと決心していません。教えていただいたことをできるだけ書きとめ、それを感想とさせていただきます。

覚えていることを整理もせずに記したため、聞き漏らし、勘違い、表現不足等があり、理解できない部分があるかと思いますが、見られた受講生が書き足し、訂正して頂き、第2回の講習内容のメモが完成したら幸いです。

1 事前に(第1回の復習から)

- ① ハーネスの着装

ウエストベルトは、きつめに、お腹を引っ込めて締める。レッグループは手がやっと入る程度に締める。

ギアロックの前は、攻撃的なものを、後ろは、頻繁に使わないビレー器、シューズ、手袋を

② ヘルメット

あごひもは、きちんとぶらぶらしない程度にきつく締める。頭の大きさに合わせて調整する。

③ ハーネスに結ぶエイトノット

ロープの太さにより変るが約 50 cm のところにエイトノットを作りハーネスに結着する。(エイトノットの狭い部分からロープを通し、形よくハーネスの近くにつくる。)

端末処理(オーバーハンドノット)をして、ロープの径の 10 倍 (約 10 cm) の余裕をとる。

④ クレイムヘイストノット

フィックスロープを使用しトラバースする際、メインロープに結び、結び目を移動させながらセルフビレーとして通過する。同じ効果のあるタイブロックといったものがある(沢や雪山の時威力を発揮する。)

⑤ クローブヒッチ

支点がカラビナの場合、メインロープをカラビナに通してセルフビレーを取るときに使用する。長さが調節できるので重宝する。片手でできるようにしておく。

2 フィックスされたロープの通過 (クレイムヘイストノットの使用) (支点間には、通常一人とし、一人が通過したのちにもう一人が通過する。)

① ロープが固定されている箇所の通過

セルフビレー用にカラビナ(環付)を 2 枚準備しておく。

ロープが固定しているため、そのまま通過できないので、使用していないカラビナを次の区間のロープ又は、支点のスリング等にセット(カラビナにカラビナをかけない。ゲートが開く危険性が増す。)してフリーにならない状態で、通過した箇所のカラビナを外す。

② ロープが固定されていない箇所の通過

フィックスロープに通している支点のカラビナにセルフビレーに使用しているクレイムヘイストノッ

トを通した後にセルフビレー用のスリングを支点のカラビナをくぐらせて通過する。

クレイムヘイストノットを移動させるときは、結び目をつかむのではなく、下から押すようにして移動する。握って移動させていると、滑った場合、制動が効かない。

3 ラッペル (ラッペル時の事故は、死につながるため特に安全を確認すること。)

セルフビレーをとる。

エイト環をビレーループに移動させる。(環付カラビナ(大)をエイト環の大きいリングにかけておく。)

ダブルのロープを引く。引いたロープが落ちないように足でロープを踏む。

引いたロープを折って、エイト環の大きなリングの下からロープを通し、小さな方のリングにかけ、ビレーループのカラビナを小さなリングに掛けかえる。(エイト環にロープをかけた後で操作する為、落下防止となる。)

セルフビレーよりも短いところまでエイト環を上げる。

安全環を確認し、荷重をかけ、安全を確認して、左手でセルフビレーを外す。この時、腰の位置の右手はメインロープから離さない。

下方、壁面を確認しながらスムーズに下りる。着地したら、素早くロープを引き出す。引き出したところで上のものに声を掛け、エイト環からロープをはずす。(十分に引き出さないと引き込まれる。)

下りてくる人のビレーをする。ロープの長さは「ひ」の字が書ける程度とし、ロープを持ってトラブル時に対応する。

4 トップロープ(シングル)での注意事項

① クライマー

先にハーネスにロープを結び、その後に靴を履く。(靴を先に履くと、ロープを結ばずに上る可能性がある。)

準備が整ったら、お互いが安全環の閉鎖、手袋の着装、ハーネスの着装具合、ATC の操作等を確認する。

確認が済んだら、声を掛け(「上ります。」等 ビレ

イヤーの「オーケー」で)、上り始める。

ロープの緩みが多い場合、ロープを引くようにビレイヤーに声を掛けたり、上るスピードを遅くする。声は、風や障害物により聞こえにくいので大きな声を出す必要がある。

支点のカラビナが目の位置に来たらロープを外す。(外さないと上れない。)

終了点まで上ったら、「テンション」と、コールする。ビレイヤーの「OK」で、「ローダウン」とコールし、ローダウンの態勢をとる。

下降中、支点の所に来たら、「ストップ」と声を掛け、自分側のメインロープにカラビナをかける。

出発地点に下りてきたら、「ビレー解除(オフ)」と声を掛け、ハーネスのロープをほどく。

② ビレイヤー

メインロープでセルフビレー(クローブヒッチ)をとり、手袋を着け、上、下を間違わないようにATCにロープをかける。

準備が整ったら、お互いが安全環の閉鎖、手袋の着装、ハーネスの着装、ATCの操作等を確認する。

岩から離れてビレーすると、落下した場合、引きずられ岩に当たるので、クライマーの下付近でビレーする。(落下したクライマーに当たらない箇所)

ルートが斜めになる場合、ビレイヤーはクライマーがロープに引きずられることのないようにロープを引いたり、出したりする。クライマーの声が聞こえなくなったり、姿が見えなくなった場合は、ロープの出具合により状況を感じる場合がある。

ビレイヤーは「テンション」のコールが聞こえたら、「了解」等の返事をする。座り込んでロープをきつく引く。(ロープが張ることで、クライマーは安心感を持つ。)

ビレイヤーはクライマーの「ローダウン」のコールを確認し、「了解」の返事をする。

ATCの折り返し部分を緩め不安感のないようにスムーズに降ろす。

出発地点に下りてきたクライマーの「ビレー解除(オフ)」の声を復唱し、素早くロープを緩め、ATCからロープを外す。

講師の方々の指導、指摘、注意事項のすべてが、受講生それぞれが目指す、自立した山行に活かすことが出来る濃密な内容が無駄のない進め方で「あつと」という間に終了となりました。

ご指導いただいた技術を実践に活かし、「行きたい山に、行けるように」安全登山を行いたいと思います。引き続きよろしくお祈りいたします。

山の風景 28

2013・5・11

吾妻山登山

写真提供 森 智昭(ひこばえ)



第2回クライミングスクールを受講して

5月12日(日)

振りかえると何と景色のきれいなことか・・・

御崎 勝

本日は、大変良い天候に恵まれ気持ちの良いクライミングスクールとなりました。まずは、取付きポイントでの前回のエイトノットとクローブヒッチのおさらい、意外とできてない人がいたので繰り返しの練習となり良かったです。(もちろん私も勉強になりました。)

次にフィックスロープを使った移動時のクレイムヘイストによる、支点の通過方法では、殺してある支点が多数あり繰り返しの練習となりすぐ覚えること

が出来ました。そしてラッペル初めは短い距離、緩い緩斜面となかなかコツが掴めず足元がフラフラとこんなので大丈夫か?と不安になりました。休憩後、フィックス伝いにちょっとした登山!これがなかなか面白くリラックスできました。最後のラッペル地点までの移動ではフットジャミングのテクニックを教えてくださいました。私は、うまく使いこなせずやばかったです・・そして、終了点からのラッペルは、気持ちの良いものとなりました。これも、初めのラッペルでの難しさがあってのものだと思われま

す。最後にクライミングとビレイの練習になりました。おお、ついにクライミングかともものすごく緊張しました。私はまず、右のコースに入りました。三つある中で難易度は中と言われました。とにかく初めてなので無我夢中で登りました。終了点まで到達し振り返るとなんと景色の綺麗なことか・・下降するのが惜しいくらいでした。そしてビレイに移りました。正直ビレイの方が大変でした。汗だくだくになりました。次に、真ん中のコースでクライミング・ビレイしたところで時間切れみたいだったのですが、最後に左のコースのクライミングに挑戦できることになりました。ここは、下から見ると違い登るとわかる難しさが、核心の部分を超えることができませんでした。ただ、私にとってはここを今回経験できるのとできないのでは、次回への意気込みがかなり違うのではないかと思います。全員がここを体験できたのかな?と思いました。もっともっと時間がほしいなと思えるくらい充実していました。

これも、スタッフのみなさまのご指導のおかげだと感謝しております。次回も晴天であることを祈りつつ感想とさせていただきます。

岳連短信

1、第 52 回全日本登山大会案内

- 開催期間 11月8日(金)～11月10日(日)
- 主催 (公社)日本山岳協会
- 主管 茨城県山岳連盟

- 開催場所 水戸市、大子町、常陸太田市、北茨城市、日立市、つくば市
- 定員 250名(定員になり次第締め切り)
- 参加費 33,000円(宿泊費、全食費、大会中の輸送費、記念品、保険料含む)
- 受付・開会式会場
「水戸京成ホテル」 電話 029-226-0011
茨城県水戸市三の丸1-4-73 JR水戸駅北口
- 日程
11/8(金) 12:30～14:00 受付(水戸京成ホテル)
14:00～14:30 開会式(水戸京成ホテル)
15:00～16:00 講演会
「茨城県内山地の成立—5億年前から日本列島誕生までを見る」/参与会
16:30～
宿泊場所へバス移動開始(到着後夕食、入浴)
- 11/9(土) 6:00～8:00
登山口へバス出発(コース毎により異なる)
7:30～9:00 登山開始(コース別登山行動)
A. 筑波山(周回)コース(6.2Km,6:45) B. 奥久慈男体山・袋田の滝(縦走)コース(7.0Km,6:20)
C. 竜神峡(沢登り)コース(7.4Km,7:10)
D. 神峰山(縦走)コース(10Km,6:00)
E. 花園・七ツ滝(周回)コース(5.3Km,4:30)
13:30～15:10 下山後、バスにて水戸駅に移動
16:30～17:00 バス水戸駅到着、宿泊場所へ移動(入浴他)
18:30～19:00 閉会式「水戸京成ホテル」
19:00～21:00 お別れ会「水戸京成ホテル」、終了後宿泊場所へ移動
- 11/10(日) 7:00～ 朝食(朝食後自由解散)
8:30 オプションツアー出発(希望者のみ)
集合場所:水戸駅南口 出発:8:30 解散は東京駅八重洲口(16:20予定)
- 参加申込 ①所定の申込書(山岳連盟事務所にある)に必要事項を記入し、記載責任者捺印の上「参加費振込みの控え」を添えて、「トップツアー(株)」に送付か Fax して下さい。②記載責任者は、

「参加申込書」のコピーを広島県山岳連盟事務局まで提出して下さい。

10. 申込期間 7月7日(日)～9月7日(土)

11. お問い合わせ先 広島県山岳連盟事務局「第52回全日本登山体育大会」係 〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17 広島県山岳連盟事務局

TEL・FAX (082)296-5597

(月～金 13:00～18:00)

事務局長(豊田) 携帯 090-7373-6432

hgakuren@lime.ocn.ne.jp

2、「ちゅうごく 山歩き」発刊

B5版 56頁(オールカラー) 定価500円

中国新聞夕刊に毎週水曜日に掲載されている「ちゅうごく山歩き」の2012年3月～13年4月までの50山を紹介。松島宏著。登山ルート地図、所要時間、アクセス、登山帰りに利用できる温泉施設、山歩きや装備、等高線の入った地図の読み方、緊急時の対応など掲載。

3、山を楽しむひこばえ写真展開催

第13回山を楽しむ「ひこばえ写真展」は6月18日(火)～23日(日)の期間、NHK放送センター2階NHKギャラリーで開催された。登山教室ひこばえ主催で42点の山や自然の写真が展示された。今回は「雲月山 山焼き」(福永やす子)、「私の畑の黄金達」(京才昭)が特別出展された。ほかに沢登り、トムラウシ山、萩往還、臥龍山、野呂山、大山、ネパール、エベレストなど。来観者は約300人だった。

4、受贈御礼

筆影 7月号 400号記念誌 2013・7発行
三原山の会 10頁

5、賛助会員のお願い

財政の強化のため賛助会員を募集しています。岳連の発展のためご協力をお願いします。

口数 個人 1口(5,000円)以上

加盟団体・法人の場合

1口(10,000円)以上

1、賛助いただける口数をお願いします。

2、申込書と申し込み口数を山岳連盟事務局までお届けください。

3、振込先 広島銀行横川支店(口座番号(普通)014-3251234 加入者名一般社団法人広島県山岳連盟会長 京才 昭

山の風景 29

2013・5・11

大膳原より比婆山系烏帽子山を望む

写真提供 森 智昭(ひこばえ)



編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○各研修会、講習会へ参加された方は積極的に報告書を提出ください。随時掲載いたします。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

題字デザイン 今村みずほ

編集 仲井正美